

令和5年度 理科

教科	理科	科目	理科2	単位数	1	年次/コース	中学1年生/特進コース
使用教科書	未来へひろがるサイエンス1						
副教材など	中学の理科 第2分野						

1. 学習の到達目標

<p>●科目について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物や動物が、種類によって決まった特徴をもち、生活環境と深いつながりをもって生活していることを理解する。 ・植物や動物を観察し、その特徴にしたがって分類できるようになることで、身近な自然を科学的にとらえることが出来る見方・考え方を養う。 ・火成岩や堆積岩の観察から、それぞれの成因に関わる特徴を理解させる。また、火山活動や地震のメカニズムの学習を通して、地球の活動や大地の変化について科学的に推測できるようになる。 <p>●コンピテンシーについて</p> <p>グループ学習や実験を通じて、疑問に感じる自然現象に対する仮説を立て、意見交換や調べ学習を通じて仮説を検証していくことで、学びに向かう姿勢を身に付けていく。</p>
--

2. 学習方法について

<p>●授業中において</p> <p>理科Ⅱでは、生物・地学分野を扱います。中学校では、小学校で学んだ学習に加えて、より専門的な内容を学びます。本授業では、観察や実験を通して、学校でしか知ることができない発見をもとに理科の知識を蓄えていきます。難しいと思う内容もあるかもしれませんが、自らの新たな発見がきっと理科を好きにしてくれます。一年間、理科の楽しさをたくさん見つけられるように、一緒に頑張りましょう！</p> <p>●家庭学習において</p> <p>授業中の気になった・疑問に思ったことを、タブレットなどで調べていきましょう。確認テストの学習・定期考査の学習に関しては、高得点が取れるように、問題集を中心にテスト勉強を行ってください。</p>
--

3. 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	①：知識・技能	②：思考・判断・表現	③：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの自然の事物・現象を理解するための基本的な知識を身につける。 ・与えられた実験器具を正しく使って実験操作を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの生物について実験、観察を行い、結果を正しく考察することが出来る。 ・観察の結果を基に、生物を特徴ごとに分類し、比較しながら考察することが出来る。 ・観察、実験について、結果を正しく表現することが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの自然の事物・現象に対して、興味関心を持つことが出来る。 ・グループで協力しながら、与えられた内容の課題をすることが出来る。
評 価 方 法	定期考査の成績 実験レポート 授業内観察 パフォーマンス課題 など	定期考査の成績 実験レポート パフォーマンス課題 授業内観察 など	パフォーマンス課題 課題の提出状況 授業内観察 など

上に示す観点・評価方法に基づいて、各観点で評価し、学期末に当該学期の観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。また、学年末に年度を通しての観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)及び評定(1~5の5段階)にまとめます。

4. 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元（題材）の評価規準	評価方法
			①	②	③		
1 学期		身のまわりの生物の観察		○		B 単元の学習内容に興味をもち、課題を見いだしている。	テ・実・授
		1章 植物の特徴と分類	○	○	○	A①分解した花のつくりを、各部分に分けて順番にテープで貼り、特徴を記録することができる。 ②被子植物の花の基本的なつくりを理解する。 ③受粉後、花では胚珠が種子に、子房が果実になることをなることを理解する。 ④被子植物と裸子植物の特徴の共通点と相違点を理解する。 ⑤葉や根のようすを観察し、結果を表などにまとめて記録することができる。 ⑥単子葉類と双子葉類の特徴の違いを理解する。 ⑦種子をつくらない植物にはシダ植物やコケ植物があり、胞子でふえることを理解する。	テ・実・授・パ
2 学期	自然の中にあふれる生命	生物のなかま分けのしかた	○	○	○	A①身近な動物について、体のつくりや生活のようすなどについて調べ、適切に記録することができる。 ②動物が背骨の有無によって脊椎動物と無脊椎動物に分けられることを、理解している。 ③脊椎動物を特徴にもとづいて、5つのなかまに分類できることを理解する。 ④無脊椎動物には、節足動物や軟体動物などさまざまななかまがいることや、節足動物や軟体動物のおもな特徴を理解する。 B①動物の体のつくりと生活について、自分の考えを表現することができる。 ②体のつくりの特徴がその動物の生活のしかたと深い関係があることを、草食動物と肉食動物の例などから見いだすことができる。 ③脊椎動物の分類について、分類の観点をあげることができる。 ④昆虫類や甲殻類の形態的特徴をもとに、節足動物に共通する特徴を見いだすことができる。 ⑤学習した、動物のなかまごとの特徴を手掛かりに、種類のわからない動物がどのなかまに分	テ・実・授・パ

					<p>類できるかを推論することができる。</p> <p>C①動物の体のつくりと生活について興味をもち、進んで体のつくりと生活の関係を調べようとする。</p> <p>②これまで学習してきた脊椎動物と無脊椎動物の特徴をふり返り、動物の分類について、探究する。</p>		
3 学 期	活きている 地球	1章 身近な 大地	○	○	○	<p>A①地形や大地の構成物などの特徴は、大地の変化と関連していることを理解する</p> <p>②大地を観察する方法や記録のしかたを身につける。</p> <p>B 地域の大地の観察結果から、大地の成り立ちや変化を推測するとともに、それらに関する問題を見いだすことができる。</p> <p>C 観察をふり返り、見いだした問題を今後の学習によって解決する見通しをもとうとする。</p>	テ・実・ 授・パ
		2章 ゆれる 大地	○	○	○	<p>A①地震のゆれの特徴を、地震計の記録と関連づけて理解する。</p> <p>②日本列島付近で起こる地震の特徴を、プレートの動きと関連づけて理解する。</p> <p>B①震源距離と初期微動継続時間の関係を見いだすことができる。</p> <p>②過去の地震例から、観測点によって地震のゆれの強さに違いが生じる要因を見いだすことができる。</p> <p>C 震源距離と初期微動継続時間の関係が成り立つ理由を考えようとする。</p>	テ・実・ 授・パ
		3章 火をふ く大地	○	○	○	<p>A①火山噴出物の特徴を理解する。</p> <p>②火成岩の特徴を見だし、記録することができる。</p> <p>③日本列島付近に火山が多い理由を、プレートの動きと関連づけて理解する。</p> <p>B①マグマの性質と火山の形の関係について、仮説を立てることができる。</p> <p>②モデル実験の結果から、マグマの性質と火山の形の関係を見いだすことができる。</p> <p>③火山岩と深成岩の組織の違いができるしくみを推測することができる。</p> <p>C 他者と関わりながら、実験計画をもとにマグ</p>	テ・実・ 授・パ

					マの性質と火山の形の関係について調べる実験を、粘り強く取り組もうとする。	
	4章 語る大地	○	○	○	<p>A①地層のでき方を、時間的、空間的な変化にもとづいて理解する。</p> <p>②堆積岩の特徴を見だし、記録することができる。</p> <p>③地層に含まれる化石をもとに、地層が堆積した当時の環境や形成された時代を推測できることを理解する。</p> <p>④地層の特徴を見だし、記録することができる。</p> <p>⑤さまざまな大地に関する事物・現象が起こるしくみと関連づけて、大地の恵みと災害を理解する。</p> <p>B①地層の特徴から、地層の広がりを捉えたり、地層が形成された過程を推測したりすることができる。</p> <p>②プレートと大地の活動の関連を見いだすことができる。</p> <p>③日本列島で発生する可能性がある地震をあげ、その地震による災害を想定することができる。</p> <p>C 他者と関わりながら、大地の恵みと災害を調べようとする。</p>	テ・実・授・パ